

平成30年度事業報告

1 概要

わが国の65歳以上の人口は、3,577万人（平成30年10月時点）と、総人口に占める割合は28.1%となり、昨年（27.7%）と比較すると、0.4ポイント増と過去最高となりました。

高齢化や労働人口の減少が急速に進展する中、地域経済の重要な担い手として、高齢者に対する社会の期待が高まっています。しかしながら、その期待に応えるだけの人材が集まらず、会員数の減少傾向が続いています。

平成30年度は全国シルバー人材センター事業協会が策定した「**第2次会員100万人達成計画**」の初年度であることから、「会員拡大」を重要課題として、目標会員数達成に繋がる取り組みを積極的に取り組んでまいりました。また、「**平成30年度事業計画**」に基づき、様々な工夫を凝らしながら地域に根ざした自主的、効果的なセンター運営を行ってまいりました。

その結果、会員数につきましては、目標会員数の1,300人に対して1,307人となり、前年度に比べ4.4%の増加になりました。

また、事業実績では、請負・委任事業は一般家庭からの受注は減少しましたが、公共事業と一般企業からの受注が増加したことから、前年度に比べ約7,940千円の増額となり、派遣事業も堅調に伸びたことから約4,291千円の増額となりました。

よって、請負・委任事業と派遣事業の合算契約金額は570,815,509円となり、前年度に比べ2.2%の増加となりました。

次に、安全就業につきましては、傷害事故は前年度より2件増加し6件になり、賠償事故につきましても2件増加し9件発生しています。

安全就業はシルバー人材センター事業の基本であり、全会員が「**安全はすべてに優先する**」を強く自覚し、今まで以上に、会員と安全衛生委員会、安全就業推進員が一体となって、傷害事故及び賠償事故撲滅を目指し、より一層積極的に取り組む必要があります。

2 事務事業の実施状況

(1) 会員の動向

平成30年度末の会員数は、前年度に比べ55人増の1,307人になりました。

この内訳は、181人の方が新たに入会されましたが、一方、諸般の事情から退会された方が126人となっています。雇用延長等により、入会者は減少傾向ですが、会員の紹介により53人の入会者がありました。

会員の増強対策として、宇部日報への会員募集広告やFMきらら出演など広報メディアを利用したPR活動を実施しました。また、女性会員獲得のために女性委員会を立ち上げ、様々な講座を開催しました。更に、地域に出て行う出張説明会も実施しました。入会促進だけでなく退会抑制対策も重要なことから会員親睦旅行も実施しました。

一人でも多くの方が入会され、就業の場を通じて地域社会への貢献と、自らの健康づくりや生きがいの充実を求めていると考えています。

(2) 事業実績

平成30年度の請負・委託事業と派遣事業を合わせた受注件数は5,557件、契約金額は前年度に比べ2.2%増の570,815,509円となりました。また、就業実人員は1,088人、就業延べ人員は109,411人となり、就業率につきましては83.2%となりました。

契約金額につきましては、公共事業や民間企業からの受注が人手不足から増加傾向にあり堅調な状況でした。

なお、会員の紹介により12件の新規就業獲得がありました。

(3) 普及啓発活動

地域社会に広くご理解とご支援を得るため、会員による就業先での就業開拓やうべまつりなどのイベント会場や商業施設でのチラシ配布など普及啓発に努めました。また、地域班によるボランティア活動にも185人の会員が参加し、普及啓発活動に努めました。

今後も更なる会員の増強と就業機会の拡大を図るため、会員の口コミによる入会勧誘や就業先での業務紹介など、会員、役員、職員が積極的な普及啓発活動を推進する必要があります。

(4) 安全就業の確保

傷害事故の発生件数は昨年度より 2 件増加し、6 件発生しています。発生状況は就業中が 5 件となっています。

市内でも高齢者の交通事故が多発していることから、就業途上の交通事故防止を図るため「会員のつどい」において宇部警察署による交通安全講習を開催し、交通安全意識の高揚に取り組みました。

また、賠償事故は昨年度より 2 件増加し、9 件発生しています。

毎月、安全衛生委員会による就業先への安全パトロールを実施しているところですが、会員一人ひとりが細心の注意と自覚をもって、作業の安全第一を心がける必要があります。

なお、傷害事故及び賠償事故の当事者を対象に「会員安全研修会」を実施し、安全就業について再教育を図り、事故の再発防止に努めました。

(5) 会員組織活動の状況

センター事業の運営に多くの会員の意見や要望を反映させるため、自主的運営のもとに地域班が組織されており、各地域において運営全般にわたる意見交換や班員相互の交流を図る会議が、会員参加のもと全 12 地域で開催されました。

また、職群班は技術向上と班員相互の親睦を図るため、会議や講習会が開催されています。

なお、会員の資質向上を目的に、講師を招いた「接遇講習会」も開催しました。

(6) 会員の福利厚生

「会員のつどい」では、「終活」をテーマに、「終活を行うために知っておきたいこと」と題した講演や、「最近の交通情勢について」と題して高齢者の交通安全についての講話、演芸大会、お楽しみ抽選会を行いました。

演芸大会では民謡同好会の皆さんの演技や会員によるカラオケの熱唱など、会員相互の親睦が図られました。

また、公益社団法人として初めての試みとして、会員相互の親睦を図るために福岡方面への会員親睦旅行を実施しました。